特集

子どもたちが放課後で過ごす３年間の時間

5046時間

小学生の大切な時間を考えよう。

近所の探検、秘密基地、川遊び、ゴム飛び、缶けり、けいどろ。
何もなくたって、ただただ楽しく、気の合う仲間と
暗くなるまで遊んでいた僕らの子ども時代。

今の子どもたちは何だか忙しそうで
そんな風に遊ぶ姿を見るのって
減ってきてるんじゃないかな。

あとになって取り返すわけにいかない
「子どもたちの今」のために。
そして「未来のまち」のために。

大切な「５０４６時間」。
松江市で子どもたちの未来のために頑張る
さまざまな立場のひとの思いを聞きました。

※5046時間・・・小学校１年生～３年生までの３年間、平日放課後・土曜日・長期休み期間中に学童保育を利用した場合の平均時間。

「子どもに寄り添い、お母さんの負担感を軽くできる場所を作りたい」

学童保育 あおのほし
副社長 三浦 美緒さん

あおのほしを開所したきっかけは？

息子の小学校進学を控え、学童保育について話を聞いた際、学童保育での待機問題が身近にあることが分かりました。
また、子どもに寄り添い、みんなで心豊かに過ごせる場所を作りたい、お母さんの負担感を軽くできる場所を作りたいと思うメンバーが集まり、民間でできることがきっとあると考えて開所しました。

あおのほしの特徴は？

一番は、スタッフが子どもたち、ひとりひとりをよく見ているところです。
元保育士や学校教諭、セラピストをしていたスタッフたちが、それぞれの経験を生かしています。
週に一度のスタッフ会議で、情報の共有をしていますので、来所する子どもたちのことを、どのスタッフもよく理解できていると思います。
さまざまな事情から、公設の学童保育を断られてしまったお子さんが来所されることになった際も、スタッフ全員で話し合い研修を行って受け入れをしています。
また、年中無休で当日受けもしていますので、例えば台風などで学校が臨時休校になってしまった際などに利用してもらえるのも大きな特徴かと思います。

とても丁寧に対応されているんですね。子どもたちはどんな風に過ごしているのですか？

学童は、学校でも家でもない中間の場所です。
時間割りや規則はなるべく作らず、子どもがいて、大人がいて、一緒に学んだり、体験することを大切にしたいと思っています。
例えば、ウチには完成されたおもちゃはありませんが、木や紙などを使って、一緒に想像力を使いながら作っていくことを楽しむことができます。
外部から、こんな活動をしていて、子どもたちに教えることができます！と協力してくださる方もいらして、先日も木育インストラクターの方の教室を開催しました。子どもたちとスタッフといった関わり合いだけではなく、「いろんな大人・職業がある」ことも知ってもらえたらと思います。
何気ない会話でも、子どもたちの人生を変えるかもしれないという意識を常に持って接しています。
空いている日中の時間を利用して、子育てを頑張るお母さん、お父さん方のための相談室やセラピー、イベントなども開催しています。

学童保育 あおのほし　TEL: 0852-65-0412　Mail : aonohoshi.08@gmail.com
松江市浜乃木2丁目10-25　URL: http://aonohoshi.info

「子どもたちに、たくさんの体験を！大人が胸を開こう」

八雲公民館館長
石倉 知樹さん

八雲公民館では、月～金曜日は図書室を解放して、安全管理員の方に見守ってもらっています。学習してもいいし、ボードゲームをしたり、お話しても、もちろん本を読んでもいい。奥部からバスで通っている子がバスの待ち時間を過ごしたり、保護者の仕事が終わって迎えにこられるまで待つ間に寄ったりする子が多いですね。
のびのび八雲っ子は、学校は週5日制になっても、親は休みじゃない子どもの居場所をと、平成14年度から毎月第2土曜日の午前中に開催するようになりました。今は、月曜日の15:00-17:00も小学校の体育館やグラウンドを開放しています。

平日の放課後や夏休みに開放されている場所が増えるといいなと思うのですが、難しいでしょうか？

増やすには、予算や、安全管理員さんの確保が必要ですね。1回千円と謝金が低額なこともあり、引き受けてくださる方を探すのも苦労があります。実際、安全管理員として見守りされると、子どもたちから元気をもらうという方も多いのですが･･･。
高齢者への応援に対してや、教育や子育て支援への財源がまだまだ少ないと思います。大人が胸を開いて、地域の子どもを育てるんだという気持ちで、将来を担う子どもたちへの支援に力を入れていかないとね。

八雲公民館では平成16年からは、3泊4日通学宿泊体験も行っています。公民館に泊まって、ここから学校へ通い、食事もいっしょに作って食べます。電子ゲームやTVは禁止だけど、楽しそうに過ごしていますよ。
協調性や基本的な生活習慣などを見につけるのが狙いです。その時は子どもをお客さま扱いしないで、何でも体験させることや自主性を育てることを大切にしています。
あんまり手をかけ過ぎると、好きか嫌いか考える力や自立心が育たないでしょう。料理中に、包丁で手を切る子もいます。でも、そういう経験をすると、痛みが分かって気をつけるようになったり、加減が分かるようになって上手になります。危ないからと体験を十分にさせることなく成長してしまうと、痛みが分からない、試練に耐えられない大人になってしまうのではないかな。
幸いハ雲は、子どもたちが宿泊体験しますというと、野菜を持ってきてくれるご近所の方もいますし、恵まれた自然環境があるので、子どもがいろんな体験を充分にできるよう、これからも公民館ができることを考えて、続けていきたいと思っています。

八雲公民館
松江市八雲町西岩坂 355-1　TEL:0852-54-2478

「子育てを応援したい！ただその思いで」

いっしょに子育て研究所 代表取締役
松江民設児童クラブ連絡協議会会長
宮原 展子さん

いっしょに子育て研究所（以下こそけん）はどのようにスタートしたのですか？

働くお母さんのためのサポート体制は、保育園をはじめ、段々と改善されてはいますが、 24時間、365日育児に奮闘している専業のお母さんたちへの支援がほとんどないと感じ、先輩お母さんや現役お母さんと子育て支援を一緒に考え、運営していく場を作ろうと2001年にこそけんをスタートしました。

学童保育は、どうして始められたのでしょう。また、どんなお子さんが通ってきておられますか？

学童事業は、周囲の声に背中をグイグイと押されるようにして、2011年に始めました。現在は津田、中央、大庭、乃木、雑賀、古志原、附属などから子どもが来ています。カリキュラムや雰囲気で選ばれる方、公設の学童では時間的に間に合わない場合や、公設の児童クラブを不受理、不許可になられた方など、選ばれる理由はさまざまです。
以前は、夏休みなどの長期休暇の時だけ通わせたいという方も受け入れができましたが、最近は通年で通う子でいっぱいになってしまったので、難しい状況です。来年には第2施設を開設する予定です。

それだけニーズが高いわけですね。

お母さん方の話を伺っていると、切実に困っている方もおられるので、できる限り対応するように努力しています。昨年度からは、それまで19時までだった基本時間を20時までに延長しました（延長最大21時まで）。経営的には難しい面もいろいろありますが、感謝や喜びの声を聞くと、また頑張っていくパワーがわいてきます。

経営的に厳しい状況なのですか？

もともと利益が出る事業ではないのですが、＊新制度によって、延長時に例え１人のお子さんになったとしても、2人以上のスタッフが必要になったのは影響が大きいです。
※27年4月から施行された子ども・子育て支援新制度。常時複数以上（（うち１人は研修修了者）の配置など、設備及び運営に関する基準が示された。

特に工夫していることや、苦心していることは？

スポーツ鬼ごっこや合唱など、子どもたちの多彩な可能性を引き出せるように工夫しています。この夏休みには、初めて民設の児童クラブ合同でスポーツ大会を開催し、好評でした。
ただ、そうして工夫していても、土曜日や夏休み中などは、この建物だけではエネルギーを発散しきれていないと感じることがあります。こそけんがあるのはまち中で、歩いていける公園もありません。小学校は近いので、校庭などで遊ばせてもらえると、とてもありがたいのですが･･･。

いっしょに子育て研究所
松江市西津田 2 丁目 9-4 TEL: 0852-25-2225　学童保育専用TEL : 070-5057-8543
E-mail : gakudo@coso-ken.co.jp

「子どもたちが五感を使い自由に遊べる場を作りたい！」

みんなのあそびば asoviva
代表 岸 良助さん

みんなのあそびばを始めたきっかけは？

児童クラブに勤めていた時、ここに来ている子たちには、学校でも放課後も常に時間割があって「何をしようかなぁ」と考える自由もないのではと感じていましたが、変えるにはいろいろと難しい点があって･･･。その時にプレーパークを知り、自分でもやってみたいと思ったことがきっかけで始めました。

プレーパークについて教えてください

かんべの里のてんぐの森で、月に一度日曜日に開催しています。森の中でたき火をたき、各自持ってきたマシュマロやウィンナー、お芋などを焼いて食べたり木登りをしたり、工作をしたり、自分の責任で自由に遊びます。てんぐの森プレーパークでのルールは「危ない、ダメ、汚い、早く」を言わないことです。

うわー、NGワード、子どもが小さいころ、かなりの頻度で言っていましたー(^^;)

「何かあったらどうするの？」という声もありますが、責任のことばかり言っていたら、子どもたちの自由を削っていくしかなく、自由な遊びはできません。責任をみんなが負担しながら、お互いに協力していくことが大切だと思います。もちろん、なるべく危険がないよう環境を作り、見守れるよう研修を受けています。初めて来て、どう自由に遊べばいいのか分からず「何をしたらいいの？」「～してもいい？」とたずねる子も多いです。でも時代は変わっても、子どもたちの本質は変わらないはず。今の子は自由に遊ぶことに慣れてないだけで、しばらくすると勝手に遊び出します。僕は、イベントなどで、刃物を使った工作教室も開催していますが、今の子は、自分の手で何かを創り出す身体的経験や、本能的に動く経験が少なくなってしまっていると感じます。

ご希望やお悩みがありますか。

子どもたちに五感を使い、本能的に動く体験を取り戻してあげたい。そのためにも、それぞれのまちで、普通のお母さんたちがプレーパークを運営できるような仕組みを作りたいなと思っています。それから、個人的には自分と同じくらいasovivaについて考えてくれるパートナーのような存在がほしいですね。

プレーパークを作りたい!と思われている方、ぜひ岸さんとつながって一緒にプレーパークを運営してみませんか？

みんなのあそびば asoviva
松江市浜乃木3丁目8-21　TEL: 090-6411-7377　Mail : minnano_asoviva@yahoo.co.jp

子どもたちの5046時間を思い、さまざまな立場で頑張る6人

「子どもたちが過ごす時間の質を考えたい」

子どものこころのコーチング協会
インストラクター　高島 智さん

松江市内の公設民営の児童クラブに15年勤務しました。僕がいた児童クラブは自由に遊ぶ環境を整えていた方ですけど、変わっていく社会の中で、なかなか思うようにできないことも多かった。僕がずっと考えていたのは、「子どもたちの健全な発達の場にしたい。自由なマインドで、個の性格・生活に対応した環境を作らなければならない」ということです。

それは、子どもたちの成長過程なども総合的に考えてですか？
そうです。実際には、家で留守番できる子もいる。児童クラブに行きたくない子も多い。しかし、親は働く環境や現代社会の状況で、留守番という選択は選べない。だったら児童クラブを、他にはない経験・体験ができる場所にすれば、もっと子どもたちは成長できる。そう考え、子どもが自分で考えて行動し、学ぶことができる遊び・生活に取り組みました。

現在の児童クラブや放課後を取り巻く環境をどう見ていますか？
子どもの数は減っているのに、児童クラブ数は増えている。しかし指導員の数は増えないし、確保が困難です。経験が浅い指導員ほど安全管理をしやすいように、集団行動をとらせようとする傾向があります。本来は、個の成長にあわせ、きめの細かい放課後の時間の取り方が必要だと思うんですが…。どんどん安全管理という名のもとに、子どもたちの自由度が減っている。これは、親も地域も、社会も、私たち大人全員が、安全管理上の責任の話をする以上、ずっと続いていく問題ではあります。だけど、昔、親たちが遊んでいた川が、いつの間にか立ち入り禁止のロープが張られるようになっている。親が子どものころ、危険もあったかもしれないけれど、それと同時に多くの学びも、気づきもあったはずです。今の社会には、そういうことを話し合う、寛容さや議論が深まらない感じがしています。

今後、子どもたちの放課後の時間の在り方はどうなっていけばよいと思いますか？
子どもにとって「放課後」は本当に成長でき、多くを学ぶことができる大切な時間。その価値を考えれば、親も、学校も、地域も、みんな一緒に考えていく事が必要なはずです。子どもたちの時間は二度と戻ってはきませんから。

高島 智さん
E-mail: satogenjin@gmail.com　TEL: 090-8248-4899

「行政から見る児童クラブの現状」

松江市教育委員会
生涯学習課　角田 直幸さん

松江市の児童クラブの数も非常に増えていて、保育所から児童クラブへは、スライド式で預けるものと思っている方も多いと思います。しかし、児童クラブは、放課後の子どもの過ごし方の一つであって、必ず通わないといけないわけでなく、親ごさんは子どもにとってどういう過ごし方が一番良いかということを考えていただければと…。行政としては、できるだけ市民の方のニーズに応えたいという思いはあります。ただ、市民の皆さまからの税金で運営する以上、限られたお金の中で支援していかねばなりません。親ごさん、クラブ、地域、みんなで良い知恵を出し合って、よりよい環境を作っていかなければならないと思っています。

現在、児童クラブには、松江市としてはどれくらいお金を使っているのですか？
公・民への児童クラブへの指定管理料や補助金で、年間4億円ぐらいです。国と県と市で、それを3分の1ずつ負担している概算です。児童数は減っているのに、入会者数は増えるという、保育所と同じ現象が児童クラブにも起きています。女性の社会進出によって共働きの子育て世代が増えるという社会の変化と、どう整合性をとっていくか、非常に難しい問題だと思います。児童クラブに入れない子どもも増えてきて、子育て世代の皆さまの苦悩の一つの問題だということは非常に強く認識しています。

「児童クラブは一つの手法」とは、どういう意味ですか？
子どもたちの成長にあわせて、例えば「今日は1時間だけは家で留守番させてみよう」「今日は友達と遊ぶ日にしよう」「今日は子どもたちの教育の時間にしよう」など、児童クラブに通わないことで得られるさまざまな経験が、子どもの自立や成長にもつながるのではと。多くの経験を学ばせるためにも、児童クラブはあくまで選択肢のひとつであると考えていけば、児童クラブに入れないという問題への解決の糸口になるのではないかと思います。

松江市教育委員会　生涯学習課
松江市末次街86　　TEL:0852-55-5311

取材を終えて

みちょって編集委員
中澤ゆかり

今回お話を伺ったのは、それぞれにできる方法を懸命に考えながら、子どもたちが楽しく過ごせる場を作っておられる方々でした。
その取材中、何度もミヒャエル・エンデの『モモ』を思い浮かべていました。
気づかないうちに大人たちの時間が盗まれて、子どもたちも自然な遊び方を忘れてしまい、主人公のモモが、時間どろぼうから、みんなの時間を取り返しに行く物語です。

働くお母さん率が日本で一番高い島根県。
これからも、その率は高くなることが予想されます。
出産後も望む仕事を続けられる環境の整備はとても大切です。
特に、長期休み中に遊んだり、学んだりできる場所の確保は、子どもたちが上手にエネルギーを発散させるためにも、とても必要だと感じました。

一方で、平日の放課後は、学校で長い時間を過ごしてきた後の時間だからこそ、広い場所で走り回るのが好きな子も、静かに本を読むのが好きな子も、その日の気分によっても、その子らしくいきいきと過ごせる環境が大切なのだと思います。
私たち大人も、エネルギーを思うように発散できないと、イライラしたり、元気をなくしてしまいますし、イヤな時間は苦痛で長く感じます。
子どもたちを守ろうとして、先のことを考え過ぎて、彼らの大切な今の時間や体験を失ってしまっていないか。
責任のことを考え過ぎて、不自由な居場所に閉じ込めるようなことにならないように、保護者も行政も民間も企業も、みんなで協力していく必要性を感じました。

各児童クラブでは指導員さん、放課後子ども教室では安全管理員さんとしてお子さんを見守ってくださる方を必要とされているところが多いようです。
お近くの小学校などで、子どもたちの見守りなどのボランティアをしてみようかなと思われる方は、まず下記までご相談ください。

連絡先：松江市生涯学習課放課後子どもプラン係
電話：0852-55-5311

illustration Natsumi.

みちょって編集委員
野津 なおつぐ

小学校1年生～3年生まで児童クラブに通ったと仮定すると、約5000時間を超える子どもたちの時間が、そこに在ると分かりました。
大切なのは、子どもたちのその時間の質を考えることではないか？
多くのひとがそれぞれの立場から、そこを問題提起しているのではないか？
と、取材を進めていくうちに感じました。
今と昔、それぞれ時代も違いますが、大切なモノは何ひとつ変わらない、子どもたちの未来を考えて、どの社会構造が一番良いかを考える必要性があると思っています。